

第5問

解説

A 資料文は、ヘロドトス『歴史』、トゥキユディデス『歴史』（村川堅太郎責任編集『中公バックス 世界の名著5 ヘロドトス トゥキユディデス』中央公論社、1980年）より引用。

問1 31 ④

まず、両者の文章を比較して、それぞれの歴史叙述にどのような特徴が読み取れるかを考えてみよう。

歴史家Xによる**文章a**には、「主観的な類推をまじえることもひかえた」「個々の事件についての検証は、できうるかぎりの正確さを期しておこなった」といった記述が見られる。これに対し、歴史家Yによる**文章c**には「その経過がそのとおりであったのか、あるいはそれと違っていたのか、ということ論ずるつもりはない」という記述が見られる。これより、歴史家Xは、歴史家Yよりも**客観的・科学的な歴史記述を行う**姿勢をとっていることが読み取れる。

ヘロドトスとトゥキユディデスのうち、厳密な史料批判に基づく客観的・科学的な歴史記述を特徴とするのは、**トゥキユディデス**なので、歴史家Xはトゥキユディデスであり、歴史家の名と、推定できる理由が合致する④が適当だとわかる。

なお、歴史家Yはヘロドトスであり、「自らが見聞きした出来事を、伝承や昔話のように表現しようとする姿勢」から歴史を叙述した。

問2 32 ②

まず、**文章b**の演説を行った「アテネの政治家」を特定しよう。問題文からこの人物が「**アテネの政治家**であること、および前431～前404年に起こった「**ペロポネソス戦争**」の**時期に活躍した**ことがわかる。したがって、この人物は、選択肢の2人の人物のうち、「ペリクレス」であると特定できる。

次に、空欄**ア**に入る語句を考えよう。**文章b**の文脈および選択肢より、空欄には**ペリクレスの時代に見られたアテネの政治体制**が入ると考えられる。したがって「民主政治」が当てはまる。また、空欄の前の「少数者の独占を排し多数者の公平を守ることを旨として」という記述からも、民主政治の特徴を読み取ることができる。以上より、正しい組合せは②であるとわかる。

その他の選択肢をチェック！

僭主政治は前7世紀頃に現れた政治体制であり、ペイストラトスは前6世紀半ばのアテネの代表的な僭主である。また、アテネでは前6世紀末から陶片追放（オストラキスマス）を行い、僭主の出現を防止した。したがって、これはペロポネソス戦争より前の時代の出来事である。

問3 33 ①

ギリシア人は方言の違いによってイオニア人・アイオリス人・ドーリア人に分かれ、さらにポリスごとに独立していて統一されることはなかった。しかし、共通の言語と祖先を持つ同一民族としての意識を持ち続けており、

資料読解

歴史的意義の考察

自分たちギリシア人をヘレネス、異民族をバルバロイと呼び区別した。なお、③の「ペリオイコイ」はスパルタの半自由民、④の「コロヌス」は古代ローマの小作人である。

B 資料文は、「旧唐書」、「新唐書」（石橋秀雄訳、江上波夫監修『新訳世界史史料・名言集』山川出版社、2005年）より引用。

問4 34 ③

■ステップ1

まず、会話文中の空欄イの王朝を特定しよう。

石川さんの1つ目の発言「もともと資料1の税制が実施されていたけれど、途中から資料2の税制に変わりました」より、この王朝では、**税制が途中で変化した**ことがわかる。

次に、この税制の変化について、史料文から具体的な記述を探すと、資料1では「租」「調」「庸」に言及されており、変化前の税制が租調庸制であることがわかる。そして資料2には、「炎（楊炎）」「秋・夏の両収穫期に徴収する」といった記述があり、これは唐代中期に宰相楊炎の献策により実施された両税法についての説明であるとわかる。以上より、この王朝は唐であると特定できる。

■ステップ2

唐は、751年、成立したばかりのアッパース朝率いるイスラーム軍と、中央アジアにおけるタラス河畔の戦いで激突し、敗北した。したがって、③が適当であるとわかる。

その他の選択肢をチェック！

- ① 平城から洛陽へ遷都し、漢化政策を実施したのは、北魏（386～534）である。
- ② 3度にわたる高句麗遠征が失敗に終わったのは、隋（581～618）である。
- ④ とうちゅうじよ董仲舒は前漢の儒学者である。武帝（位前141～前87）は董仲舒の提案を受けて儒学を国家の統治理念として採用した。

問5 35 ②

租調庸制から両税法に移行したことで、唐の政策方針がどのように転換したのか、考えよう。

■ステップ1

まず、空欄エに当てはまる内容を検討しよう。ここには、租調庸制とは異なる**両税法ならではの特徴**が入るものと考えられる。租調庸制は、土地公有の原則に基づく均田制の下で運用された税制であったが、唐代後期以降、貴族による大土地所有が進展して荘園が拡大すると、土地公有の原則は崩れ、均田制は機能しなくなり、税の徴収が困難になった。このような社会変化に対応するために実施された両税法は、現実には所有している土地に応じて課税するというものであり、唐は**土地の私有を認める**ことで財政の建て直しをはかった。したがって、空欄エには「土地の私有を事実上認めた」が入るとわかる。

■ステップ2

長野さんの2つ目の発言より、空欄ウには資料2中の記述が当ては

資料読解

歴史的意義の考察